

## 「一貫清水」のいわれ

泥浮山の東、柳津町との境界に「一貫清水」があります。この清水には次のような話が伝わっています。

昔、何人かの旅人がのどの渇きに苦しみ、一貫の銭を出してでも水を飲みたいと願ったところ、たちまち清水が湧き出しました。旅人はその水でのどを潤し、この銭を清水のあたりに置いていきました。柳津に泊まった旅人からこの話を聞いた宿の奉公人が、この銭欲しさに清水に行き、手をかけようとした時、銭が蛇と化し、土の中へ入っていきました。そのため、この清水は「一貫清水」と呼ばれるようになりました。

なお、一貫清水のある道はその昔、越後街道でした。泥浮山の元肝煎（現伊藤光希家）が会津藩に提出した書状「地誌書上」によると、太古の昔、野沢と尾野本の一部には「牛海」という大きな水海（湖）があり、尾登（今の尾登）、喉尻（今の野尻）、両又（今の四岐）、牛尾（今の牛尾）、船繫沢（今の縄沢）には舟着き場がありました。若松城下に入る近道として、四岐の近くにある如



現在の一貫清水

法寺から舟で牛尾、縄沢に乗り付け、陸路で泥浮山と一貫清水を過ぎ揚川（阿賀川）の渡し船に乗り、柳津を通り、若松城下に入るとの記載があります。

その後、「牛海」の水は銚子ノ口の地割れでなくなり、野沢本町・原町などができ、やがて駅所になりました。慶長大地震で被害があった若松城の普請で大木材を運搬する際、一貫清水を通る泥浮山→柳津ルートが難所のため、安座の肝煎二瓶七左衛門の考案で、束松峠の道を開き大材木を運んだことから、この束松峠を通るルートが今日の「越後街道」となりました。



当時の越後街道

## 今月の表紙

「弥作の滝」。大山祇神社御本社への参道入口から約2キロほど歩くと見られます。その手前には「不動滝」もあります。（5ページに関連記事）

## 編集後記

広報紙の担当となり約3カ月が過ぎ、記事の執筆や締め切りに追われる苦しい毎日ですが、それでも取材で訪れるイベントは毎回楽しみます。いろいろな出会いや発見があります。先日初めて参加した大山の健康ウォークでも、心惹かれる景色がたくさんありました。特に「弥作の滝」には一目惚れでした。一緒に散策していた知人と滝の前まで行き、緑に包まれた静寂の中、3人でしばらく時間が経つのを忘れ、見とれてしまいました。西会津には絶景や癒しのパワースポットがまだまだたくさんありそうです。これからも新たな絶景との巡り会いが楽しみです。（大堀）